

牧小だより



心ゆたかに たくましく 生きぬく子



ものの見方・考え方を身につける学び

校長 古川 正浩



「自分の言葉で語れる児童の育成」を目指して、今年度も学習・生活の様々な場面で、自分の言葉で語る機会を設けていきます。

感情や思い付きだけで話をして人にも伝わりにくいものです。そこで、大切にしていきたいのが、「ものの見方・考え方」を身につけることです。相手にわかるように話すための視点として、左に挙げた項目が役に立つと考えています。この項目を参考にしながら話を組み立てることで、相手に伝わりやすく、根拠を示した話を作ることができるようにと考え、全校で取り組んでいます。

授業では「学ぶ楽しさを味わうことのできる授業」を創るよう「主体的で対話的な深い学び」に全校で取り組み、その対話の中で「見方・考え方」をもとにした話ができるようにしています。

一人一人が考え、自分なりの考えをもち交流し、ペアや小集団(グループ)で対話を行うようにしています。一人一人が対等な立場で考えをもち、互いを尊重し、その上で、意見を交流する。それぞれの視点でとらえたことを交流することによって、見方・考え方を広げることができるようになっていきます。

また、「計算できれば正しい」というような狭い考え方ではなく、「なぜそうなるのか」「どうしてそうなったのか」を考えることで、深い学びにつながっていきます。

児童会活動や行事などの場面でも、児童が「自分の言葉で語れる」ように、語れる場を多く作るようにしています。児童の成長の場となればと考えています。



座学の場合だけではなく、活動のある授業の場でも、互いの考えや思いを交流し合う対話を大切にしていきたいと考えています。小さなころから知っている仲間だからこそ、少人数の強みとして対話を通して、自分の言葉で語れるように機会を大切に、児童の育成に取り組んでいきますので、何卒、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



母校を愛する活動について

昨年度、PTAの親子奉仕作業の活動の中で、グラウンドのフェンス際に防草シートを張っ

ていただき、フェンス際は草がほとんどない状態ですが、中心部には草がたくさん生えてきています。この状態を見て、児童会を中心として、「9」と「3」のつく日は、「93(くさ)の日」と銘打って、全校でグラウンドの草取りをしようと今年も取り組みを始めました。人数も少なく短い時間の中でしたが、きれいにしようとして一生懸命草取りをしてくれる姿は、大変うれしい姿でした。自分たちの学校をきれいにしようとしてこれからも頑張っていてほしいと願っています。

また、美しい環境づくりでは、異学年交流として活動している「なかよし班」で、花の定植活動を全校で行いました。それぞれの班が担当場所に分かれ、花の苗を植え、花の水やりなど責任をもって管理をしてくれる姿が見られます。

そして、これまでは「お化けカボチャ」の苗植えを渡辺盛雄様に育てていただいた苗を植えていましたが、今年からは、「自分たちで育てた苗を植えたい」と願い、今育苗しています。

自分たちの住むまち(牧)、自分の学校(牧小)に愛着をもち、誇りをもち、胸を張って「牧の子だ」といえる子になれるように活動を通して、心を育てていきたいと思っています。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

